

茨城、石川、岐阜、徳島、大分、佐賀

# 6県人会が合同ピクニック

## 110人参加し、交流の輪広げる



南加で活動する6県人会、茨城、石川、岐阜、徳島、大分、佐賀による合同ピクニックが6月29日、トールレンスのウィルソンパークで開かれた。参加者約110人が、バーベキューやソフトボールを楽しみ、交流の輪を広げた。

合同ピクニックは2年前に、懸念にする岐阜、佐賀の各県人会長が企画して2県人会で始まり、昨年は石川と徳島、今年は茨城と大分が加わり、参加者がどっと増え賑やかになっている。

南加では、大部分の県人会が、会員の数の減少と高齢化に頭を悩ませているのが現状。岐阜県人会会長のハッビー水谷さんは「例えば、ソフトボールをするには2チーム分の参加者が必要で、人を集めるのはたいへん」と説明する。人数不足の打開策を佐賀県人会会長の飯盛裕介さんと話し合い、「人は多い方がいいので、『ピクニックを合同でやろう』ということになった」と語った。小規模の県人会が次々に賛同し、参加を希望したという。

交流の輪広げた6県人会合同ピクニックの参加者



今回のピクニックは、午前中にソフトボールを行い、子供から年配者までの老若男女25人が汗を流した。午後のバーベキューは、県人会員の友人など6県以外の出身者も参加し、交流を図った。各自の役割を決め、買い出し係が食材をそろえ、牛肉やホットドック、各種野菜などを調理

班が焼いた。岐阜の名物の五平餅は本格的に七輪で焼き、振る舞われ好評だった。ジェスチャーゲーム、すいか割り、ラッフル抽選も楽しんだ。

ピクニックについて、水谷さんは「子どもから高齢の方まで、和気あいあいと親睦を深めることができたのがよかった。バーベキューの準備などを手伝ってくれる人も多く、ありがたかった。初めて会う人同士も仲良くして、意義のあるイベントだった」と胸を張った。



今回の県人会による合同イベントは、秋にもボウリング大会を予定しているという。他の小さな県人会も参加の意向を示しているといい、県の枠を超えた交流の輪は、ますます広がろうだ。

1980年に入り「二大超 Nuclear Disarmament (ANA) 行なったり、キャンパスで学生と集まって教育フォーラム (VFP)、イラク戦争に反対する県役者の会 (EVVA)

「LIFE」

1980年代にANA